

## 事業報告書

1 支援団体名	鹿児島大学 法文学部 酒井研究室												
2 事業名称	8.6 水害を語り継ぐ小学校×大学×地域連携プロジェクト～「やさしい日本語」を活用して子どもや在留外国人も主役になれる地域防災～												
3 実施日時	令和元年7月15日(日)、2月1日(土)												
4 実施場所	鹿児島市立荒田小学校、鶴田ダム及び川内川整備箇所												
5 事業目的、内容及びその効果	<p>(事業実施状況・内容)</p> <p><b>(1) 「避難生活を体験しよう!～荒田小学校災害防災訓練～」</b>  酒井研究室所属の学生が考案したやさしい日本語を用いた防災クイズや防災まち歩き、水難訓練等を実施し、小学校生徒やその保護者、町内会関係者らと防災について学び交流を深めた。(※14日には避難所体験や、8.6水害に関する学習会等を予定していたが大雨のため中止。)</p> <p><b>(2) 鶴田ダムバス見学ツアー</b>  酒井研究室学生や留学生、荒田小学校児童並びにその保護者、町内会関係者らで鶴田ダムや川内川河川整備箇所を訪問し、水害や防災対策を学んだ。</p> <p>(事業実施効果)実施成果の1つ目は、水害等に関する意識の向上である。参加した留学生から「日本は災害大国なので、日頃から防災について考え、避難所等を実際に確認しておくことは重要だと感じた。継続して参加したい」等の意見が多数寄せられた。1月末には参加学生が中心となり防災ワークショップが本学図書館にて開催された。2つ目は、小学生や留学生でも防災活動に参加可能となる「やさしい日本語」の活用理解の深化である。地域住民が外国人留学生とやさしい日本語で交流を図ったことで、「留学生＝(苦手な)英語＝コミュニケーションを図ることができない」という固定観念からの脱却をはかることができた。3つ目は、地域住と大学、小学校のこれまで以上の連携強化である。本事業成果を踏まえて今後も連携を強化していくことが合意された。</p>												
6 参加内訳	<table border="1"> <tr> <td>総人数</td> <td>70</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>(1) 主催者参加</td> <td>20</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>(2) 日本人参加 ((1)を除く)</td> <td>30</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>(3) 外国人参加 ((1)を除く)</td> <td>20</td> <td>名</td> </tr> </table>	総人数	70	名	(1) 主催者参加	20	名	(2) 日本人参加 ((1)を除く)	30	名	(3) 外国人参加 ((1)を除く)	20	名
総人数	70	名											
(1) 主催者参加	20	名											
(2) 日本人参加 ((1)を除く)	30	名											
(3) 外国人参加 ((1)を除く)	20	名											
7 今後の方針	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、3月下旬に予定していた地域防災事業報告会は4月に延期となったので、その開催に向けて現在小学校や町内会関係者らと連絡をとりあいなが調整を進めている。												

川内川河川整備箇所の見学



鶴田ダムにてダムの機能に関する講義



鶴田ダム内部の見学



荒田小学校校区にて地域防災まち歩き



荒田小学校にて鹿児島大学学生による防災クイズ



荒田小学校にて水難訓練

